

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	平成27年度 第3回 東村山市地域公共交通会議				
開催日時	平成27年11月30日(月) 午前9時30分～午前11時15分				
開催場所	いきいきプラザ3階 マルチメディアホール				
出席者 及び欠席者	出席者： (委員) 鈴木文彦会長・野崎満会長代理・関根康洋委員・生田正平委員・中條基成委員・今野浩児委員・加藤安信委員・上坂裕美委員・松原久寿委員・高橋眞理雄委員・高橋袈裟男委員・藤木仁成委員・島崎政一委員 (オブザーバー) 警視庁 東村山警察署 須崎裕司 交通規制係長 (市事務局) 肥沼まちづくり部次長・島田係長・藤澤主任 欠席者：小川良樹委員・眞島信彦委員・小林俊治委員				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由		傍聴者数	13名
会議次第	1.開会 2.議題 利用者サービスに関する検討 その他 3.閉会				
問い合わせ先	まちづくり部 公共交通課 公共交通係 担当者名 藤澤 電話番号 042-393-5111(内線2762) FAX番号 042-397-9438				
会 議 経 過					
1.開会 傍聴希望者の確認 ・会長 開会に際して、本日の傍聴希望者に関して、事務局に確認します。 ・事務局 傍聴希望者は、13名です。 ・会長 事務局からの報告で、本日は13名の傍聴希望者ということです。傍聴を許可したいと思います。よろしいですか。 ・異議なし ・会長 それでは、傍聴者に入室していただいでください。 ・傍聴者入室 ・会長 会議に先立ちまして、傍聴者の皆様をお願い申し上げます。会議傍聴されるにあたりましては、東村山市地域公共交通会議の傍聴に関する定め、第4条に基づきまして、遵					

守事項等をお守りいただき、会議の円滑な進行にご協力をお願いします。

次に、委員の出欠について、事務局に確認します。

・事務局

当会議の委員16名中、13名出席、3名欠席となっています。出席者、過半数以上となっていますので、会議の成立要件は満たしています。以上です。

・会長

委員16名中13名の出席で、東村山市地域公共交通会議条例 第5条 第2項の過半数の出席という成立要件を満たしていますので、ただいまより、平成27年度 第3回 東村山市地域公共交通会議を開会します。

2. 議題

・会長

東村山市地域公共交通会議は、少し中途半端な時期に始まったこともあり、12月の初めに委員の任期が変わる時期を迎えます。今の任期の中で、これまでに検討してきたサービスの中で、マップが最終的なところまでいたっていなかったこともあり、ぜひ今の任期のメンバーの中で集約していきたいということもありましたので、今日、この慌ただしいときに開催しました。

本日の議題、1つ目の利用者サービスに関する検討に入ります。前回の会議の続きになりますが、今日の検討の主体は、マップの検討になります。ではまず、事務局から、資料内容について、説明をお願いします。

資料の説明

・事務局

これまでもマップについては、この地域公共交通会議の中で協議してきた。皆さんとイメージを共有しながら最終的な整理をしていきたい。A1版イメージ図の参考資料も、回覧しながら進めていく。

<資料> 東村山市公共交通マップ デザインイメージ(案)

実際のイメージを4分の1に縮小したもの。予定の大きさはA1版。

表面			裏面
表紙	電車とバス (路線図) さんぽみちなど	ご利用 案内	東村山市 公共交通マップ【地図】
お問い合わせ先	グリーンバス主要 バス停の時刻表	各バス の運賃	のりば案内 産業・観光などのスポット表示

【地図】は、あくまでもレイアウトの参考。
折り方や掲載内容の検討を。

【前回のマップ案からの変更点等】

- ・地図面の見やすさに重点を置いた折り方に変更。これにより、時刻表の部分が影響を受けるため、レイアウトを変更。
- ・グリーンバスのみの時刻表とし、民間路線の時刻表については、QRコードからホームページへアクセス。
- ・時刻表の上に、簡易的な電車とバスの路線図を追加。(A1版イメージには、参考として他市のものを掲載)

- ・ 1日乗車券の利用促進として、市のホームページや情報コーナーで案内している散策コースを路線図に重ねて、一目で分かるアクセス方法を表示。
- ・ 散策コースの詳細も、QRコードからホームページへアクセス。

- ・ 会長

それでは、いろいろ皆さんからマップについて意見をいただいて、今日、交通会議としての基本的な集約ができればと思っていますので、よろしくお願いします。

- ・ 委員

ずいぶん長くかかって、この段階ですが、線だけが引かれている雑な感じの地図になりますか。あるいは、いろいろなものもきちんと記載した普通の地図の上に、こういう線が引かれるものになりますか。例えば、いろいろな地図がいっぱい東村山市から出ていますが、そういう具体的な地図の上に単純に路線を書き込んでいくという方法は、取らないのですか。それで十分に用は足りると思います。

- ・ 事務局

公共交通マップと書いてある地図も、きちんとした縮尺の地形図を基にして、地図に線を落としたマップを考えています。ただ、イメージとしてお示しする資料に、正確な地図を転写できなかったのが、こういう形になっています。

その地図の中だと、具体的なバス停の位置や名前が見にくいので、反対側の路線図には、よく民間バスや公共交通機関の中で、ルートやバス停の位置を示しているイラストみたいな形で、バス停の名前などを示していきたいと考えています。

- ・ 委員

そうすると、この地図の上に、バス停の位置は、載らないのですか。

- ・ 事務局

表示はしますが、たぶん細かい字になってしまいますので、路線図に大きな字で分かりやすく作りたと思っています。

- ・ 会長

表現の仕方の問題で、例えば、A1版の大きさであれば、ベースにする地図の色を少し抑えて、バス停の文字をきちんと印刷する形を取れば、そんなに細かく見にくいということは、たぶんないだろうと思います。少なくとも、バス路線に関する情報（バス停やルート）は、大きな地図上で一覧できるようにすべきだと思いますので、その辺は少し考えていただきたいです。

- ・ 事務局

この会議の中でもご覧いただいた、他市の公共交通マップも、やはり同様にしています。他市のものは、どちらかと言うと少し細かくて、バス停の名前も、場合によっては少し見にくい部分もあるかなと思います。

- ・ 会長

実は、私も言ったのですが、バス停名の文字が小さい。それをもう少し大きくしても、そんなにゴチャゴチャした感じにならないはずなので、まずはこの地図で、バス停の位置がきちんと分かるものを作って、裏側は、それぞれがどう結節しているかが分かるもののほうが、たぶん実用性があるのではないかと思います。グリーンバスのほうが路線バスよりバス停の間隔を少し短く設定しているわけですが、この大きさであれば、それを全部、ある程度の大きさの文字で入れるとしても、そんなに煩雑にはならないと思います。

- ・ 委員

地図を大きくした意味は、別に東村山市の形が分かるということではなくて、行きたい目的地とバス停が、どれぐらいの距離関係にあるかが分かることが大事なので、やは

り地図の中にバス停をきちんと入れて、例えば、このお店に行きたいときには、少しバス停から歩くが、ここで降りれば良いということが分かるようにお願いしたいと思いました。

・委員

同感です。

・会長

もちろん、地図にバス停位置と名前を入れるつもりでは思いますが、その表記の仕方を工夫することによって、この大きさであれば見にくいということもないだろうと思います。本当は、想定される書き方みたいなものを入れてもらえれば一番良かったのですが。

・委員

この地図の路線の色ですが、例えば、東村山駅東口から出ているグリーンバスと、銀河鉄道のバス路線の色が近かったり、久米川駅から出ている西武バスの2路線の色が近かったりするので、できれば違う色で分かりやすく、色を入れ替えてほしいと思います。

・会長

久米川駅から北側へ伸びている2路線が似たような色で、グリーンバスの往復ルートと、銀河鉄道の路線のカラーが非常に近いという指摘です。

・事務局

この路線の色に関しても、あくまで参考イメージで、このままの色でいくわけではありません。地図の作成のときに、業者と話しながら決めていくつもりです。

・委員

路線の関係で、市の東側に濃いブルーの破線があります。あえて言うと、全部市外を走っていますから、市民との関係性が1つ。

それから左下、富士見町の南側、細いブルーの切れている路線は、現状、休止中の状態の路線なので、発行されるマップに掲載しないほうが良いと思います。

・事務局

まず、地図の東側になりますが、これは清瀬市のコミュニティバスが、秋津駅北口まで来ていましたので、そちらを一部、表現しました。また、同じように西側の点線ですが、こちらは東大和市のコミュニティバスです。

南側の休止路線に関しては、個別の表示の仕方について、直接、バス事業者と相談しながら、表記していきたいと思っています。

・会長

実際、休止中の路線を載せてしまうと紛らわしいということもありますので、それは少し配慮したほうが良い。

それから隣接地域のバスについては、現実的に、交通網と行政境はそんなに関係がないので、隣接地域にバスが走っているのであれば、むしろその情報は、あってしかるべきだと思いますので、ぜひ掲載していただきたい。

今の段階で不明なところですが、この図の範囲から外に行っている路線が、一体どこへ行くのかは、きちんと記載をしていただきたい。例えば、立川駅へ行くなら立川駅へ行く路線だということや、あるいは、清瀬市のコミュニティバスが、どこへ向かっているのかという記載は、きちんとするようにしていただきたいと思います。

・委員

左下にある黄緑色の点線、美住・富士見の予定路線は、どう表現されるものですか。

・事務局

予算の都合もありますが、実際、作業を進めていって、発行するタイミングに合わせて、当然、可能性があるのであれば、計画なのか、実証運行なのか、本格運行なのか、

その時点での表記は、していきたいと思います。

・会長

少なくとも実証運行の段階に入っていれば、実証運行中なら実証運行中という何らかの表記をしていく。もし発行の時点で、まだ実証運行が始まっていないとしたら、入れないという理解で良いですか。

・事務局

はい。休止路線と似た意味ですので、発行するときの現実に合った形で、工夫していきたいと考えています。

・委員

点線がコミュニティバスで、実線が路線バスと考えて良いのでしょうか。実際に表示される場合も、そう表示されますか。

・事務局

今回は作業上、これだけの本数がありましたので、色分けと表示の仕方を点線と実線を使いました。いろいろな表記の仕方があると認識していますので、実際に印刷をかけるときには、技術的などところでカバーしたいと思っています。いずれにしても、見た人が分かりやすい表記にしたいと考えています。

・委員

いつもマップを見て、こういう記載があると便利だなと思うのが、施設を利用するときに、どのバスに乗れば良いのか分からないので、右側にある「公共施設案内」の右側に、乗車するバスの系統番号などを入れていただくと、市外から利用された人にも非常に分かりやすく良いと思います。市役所以外にも、図書館・公民館など、かなり件数もあるので、全部は難しいかもしれませんが、せめて市民の利用頻度が高い市役所関係の施設だけでも、あると便利です。

・委員

私は、系統番号がピンと来ないので、もし色を使えるのであれば、せっかく路線に色が入っているので、例えば、市役所だったら緑の路線とか、路線の色が入っているほうが分かりやすいと思います。

・会長

確かに、どれだけの人が系統番号を認識しているのかと、コミュニティバスには、基本的に系統番号がないので、それをどう表現するか。いろいろな課題もあるので、このマップの中で見てもらおうとするのであれば、色を使うという意見は、非常に参考になると思いました。この「公共施設案内」の表の右側を使おうとすると、そんなに広いスペースを新たに生み出すのは難しいと思いますので、路線に使われているカラーで表現する方法も検討してください。

・事務局

ぜひ参考にさせていただければと思います。公共施設の案内も、施設の種別ごとに並べるのか、路線ごとに色分けするのか、いろいろな工夫があると思います。おそらく見た目のイメージもあると思いますので、デザイン関係、専門家の意見も含めて、実際に表記をしてみて、分かりやすい表記に努めていきたいと思っています。

・会長

路線ごとにやるのは、図の中で路線をたどっていけば良い話です。むしろ「公共施設案内」として見る場合には、どこへ行く場合には、どうしたら良いのかという順番で検索するわけですから、この案内は、ジャンルごとが良いと思います。

・委員

「公共施設案内」に系統番号なり、色なりを入れた場合、一切入らない施設が出てきますが、その場合は、どんな感じになるのでしょうか。入れておいたほうが良いのか、

入れないほうが良いのか。

例えば、たいけんの里は、多摩湖町にあるので、無理やり行けないこともないですが、たぶん無理だと思うので、どう表示されるのかなと。

・会長

バスではアクセスできない施設だということが、はっきり分かることも、良い案かなという気がします。

・事務局

たいけんの里は、八国山のふもとで、特に交通の便を意識するべき施設ではないかもしれませんが、頭の中で、どうしようと思っていました。例えば、駅から10～15分もあるかもしれないし、空欄になる施設も出てくるかもしれないですが、公共交通マップの性格上、可能な限り、最寄りの公共交通は挙げようと思います。一覧にしたときに、どういう色映えになるか、どういう内容が良いのか、整理しきれない部分もありますが、なるべく公共交通マップという目的を意識した表記の仕方を工夫していきたいと感じました。

・委員

一応、タクシー業界は、国土交通省からも、公共交通の1機関となっています。大変高くして申し訳ないですが、徒歩の時間と、もし良ければタクシーも選択肢としてあるという形をお願いします。

・会長

最寄りのところまでバスが行っているか、行っていないか。あるいは、駅が近いかどうかという情報が分かるということからすると、行っていないから、その案内を省くことは、なしだと思えます。近くまで行ってないなら行ってないで、そういうことが分かる表記にしておけば、タクシーで行く選択ができるわけです。タクシー事業者の問い合わせ先もきちんと出ていますから、どこを案内するかを、バスや鉄道でアクセスできるかどうかで選ぶことはしないほうが良いと思います。

・委員

どこまで見ていけば良いのか分かりませんが、右側の「のりば案内」には、いろいろな駅が載っています。東大和駅、所沢駅であれば、ここに載っていることは、非常に適当だと思えますが、例えば、立川駅まで載せる必要があるのか。それから実際に西武バスが通っている八坂駅は、これには全く出て来ていない。これも、とりあえずこれだけ載せてあるということなのではないでしょうか。

・事務局

「のりば案内」には、バス路線の起終点がある駅を掲載しています。どこの駅を掲載するかについても、意見をいただければと考えています。

・委員

やはり東村山市から近い駅は、あったほうが非常に便利だと思います。北に行ったら所沢駅ですし、東に行けば清瀬駅があるし、東大和市駅にもバス路線が通っています。そういうところは、あったほうが良いと思いますが、立川駅までは、必要ないと思います。だったら八坂駅を入れたほうが良いのではないのでしょうか。萩山駅は、バスが通っていないので、仕方ありませんが。

・会長

確かに八坂駅は、ターミナル駅ではありませんが、バスとの結節情報が、案外、分からない面があるとすると、そういう駅の案内を入れることは、東村山市民にとっては良いことだと思いました。駅前広場がある鉄道駅は良いですが、鉄道駅と最寄りのバス停との位置関係は、分からないことが結構あります。私も話を聞いていて、非常に良い意見だなと思ったのですが、皆さん、どうでしょう。

・委員

起終点だと、もう少し出てきますよね。そうすると基準があいまいになってしまう気がするので、私は、単純に市内9駅を載せたほうが分かりやすい気がしました。

・委員

八坂駅を載せるなら、西武園駅も、所沢駅に行くバスが通っているので、西武園駅界限の人は、所沢駅にバスで出やすいこともある。市内の駅は、載せるべきだと思うし、立川・清瀬駅に関しても、あちらから東村山市に戻って来られるということが分かるし、スペースもありそうなので、載せていただければ良いかなと思います。

・会長

この場所は、単純に今は、空いてしまっているということで、別に、ここに奥付があるということではないですよ。

・事務局

はい。

・会長

それなら、いくつか駅を増やすことは可能ですから、バスが行っていない駅は仕方ないですが、少なくとも近くにバスが来ている市内の駅については、その駅とバス停の位置関係を表わす「のりば案内」にするということと、余裕があれば、直結しているターミナルとして立川駅も載せていくということで、調整しましょう。

・委員

右下にある「産業・観光などのスポット表示(凡例)」は、凡例でスポット表示をしますか。例えば、観光であれば観光の印か何かで表示をするのか。二重丸が付いていたなら、それは何々を表す、凡例とは、そういう意味でしょう。

・事務局

今、ほかの所管で、産業・商工関係、観光に関するホームページを立ち上げる準備を進めています。その情報をこの地図とリンクさせて、色別か記号のようなもので表示できればと考えています。詳細な情報については、そちらのホームページを見ていただくということを考えています。

・委員

ホームページは別のものであって、地図で完結しなくてはいけないと思います。観光の場所があるならば、もう地図の上に、そういう観光スポット、正福寺とか、きちんと載っているものではないですか。

・事務局

もちろん地図上に名称の入っている観光情報もありますから、地図を作成するときに入れますが、中には表示されていないものも出てくるかもしれませんので、凡例としています。地図上でも、観光や産業など、何のスポットか分かるように、種類によって色分け表示をしたいと考えています。

・委員

なるほど。

・委員

「電車とバス(路線図)」のところに、「さんぽみちなど」とありますが、「さんぽみち」は、本当に地図面ではなくて路線図面に書くということですか。

・事務局

「さんぽみち」については、この「さんぽみち」にアクセスするには、どの電車・バスを使ったら良いのかが一目で分かるように表示したいと考えています。地図面に「さんぽみち」を合わせますと、バス路線と重なって少し見づらくなることも考えられますので、簡易的な路線図のほうが分かりやすいと考えています。実際、作業に移った段階

で、見やすいのであれば、地図面の表記に加えたいと思っておりますが、今のところは、裏面の簡易的なアクセスの路線図で進めていきたいと考えています。

・委員

「電車とバス(路線図)」に「さんぼみち」も出るのであれば、道路の図もここに出すべきだと思います。例えば、水道道路のような道のことを「さんぼみち」と言いますよね。「さんぼみち」とは、具体的に何ですか。

・事務局

「さんぼみち」は、市のホームページや情報コーナーで案内している散策コースです。その散策コースを、「電車とバス(路線図)」に重ねたいと考えています。ただ、これは事務局で考えたものですので、この会議で、必要か、不要かということも含めて、意見をいただければと思います。

例えば、市の観光の部署や商工会、いろいろなところで市内の散策コース、「さんぼみち」を表記しています。必ずしも道路に合ったものではなく、ぶらぶら歩いて回れる、1周2～3キロなど、いくつかコースがありますので、それを表記したいということ。

地形図ですと、バス路線との線のかかわり、範囲も小さい丸になってしまう可能性もあったので、少し複雑になるかなと思い、配慮したこと。

A1版の路線図に、隣の小平市の例を貼付していますが、東村山市を表示した場合、小平市ほど複雑な線になりにくいと思っておりますので、最寄りのバス停のところに表示したほうが見やすいのではないかとということ。

確かに、バス停からの距離や位置関係などを地図の中に表記するのであれば、十分考慮しなければいけないと今、感じたところです。

・委員

電車とバスのところに「さんぼみち」がくっついてくると、異質なものを並べる気がします。優先するのは電車とバス。そして道路があって、「さんぼみち」がある。それが電車とバスと「さんぼみち」だけでは、大きなものがスポンと抜けている気がする。

・委員

異質という表現が一番近い気はしますが、私は、市で提案されている散策コースを知らないの、普通の人には、知らないだろうなと思います。散策コースを入れるのであれば、地図面に代表的なコースを1つ2つ書いておくべきであり、路線図面に載せないのであれば、一番最寄りのバス停に何かを入れるぐらいしか思いつかない。そういうことなのか、それとも全然そうではないのか、少し分からないです。

・委員

市役所のホームページを見ると、実は、すごくたくさん「さんぼみち」があります。「歴史のさんぼみち」だけで、片手では余るぐらい。私のイメージでも、小平市の電車とバスの案内には、確かに入らないことは分かる。東村山市の場合は、バス路線もそんなにないから、小平市ほど複雑ではないということなので、「さんぼみち入口」くらいならいける気もする。

私たちが「さんぼみち」と聞いたときには、地図の上をどうやって歩くのかをまず考えるし、友人も、たまにお子さん連れて、そのコースの近くまでバスで行って、どこかを回ることにはある。だからイメージの違いだとは思いますが、例えば、「さんぼみち」全体を公園みたいに見なして、ここで降りると、そのコースに入れる道があるとか。お互いに分からないというのが、今のところの感想です。

・会長

正直なことを言いますと、私が全然、「さんぼみち」のイメージができていないのですが、「さんぼみち」が、ある程度ライン上で表せるようなコースだとすると、やはりマップの中で、例えば、網掛けをした薄いラインをかぶせていくなどの工夫をしたほうが良

い気はします。鉄道とバスが、東村山市にどうアクセスしていて、どこにどう結節しているかという路線図の中での表現は、少し難しい気がします。

・委員

全く同意見です。

・委員

市役所の気持ちとしては、産業振興の一環や賑わいで、いろいろ出てくるのだと思いますが、住民としては、電車やバスに乗って、市内外に行けることが重要なことで、別にその人が、まず散策コースをいきなり回るとは、あまりないですよ。それよりも、どこかに行って、そのあと発見するというのが、普通の人の動きなので、私はここに行きたいから、どれに乗れば良いのか。どことどこで、どうつながっているのか分かることが、一番大事なことだと思います。だから散策コースは、その次の段階で、マップのわきのほうにQRコードを貼っておくぐらいで良いのかなと思います。

・会長

そうですね。本来、マップの一番大切なところはそこです。

・委員

例えば、利用促進で、1日乗車券を使って、そういった散策をするという項目があっても良いと思います。

東村山市の交通マップを最初に開いたときに下に出てくる問い合わせ先は、この紙の大きさでも余ってしまうほどの情報量ですが、例えば、西武バス、銀河鉄道、コミュニティバスの料金体系があるページに、最後に1行、何か書けば十分な情報です。

例えば、このスペースを使って、各社の1日乗車券を載せて、多少楽しそうに散策等もできることを訴えるページにする。

あとは、普段バスを使わない人、例えば、私が小平市に行って、何バスが来るといっても、どのバスか意外と分かりません。西武バスは、こういう色のバスが走っている、銀河鉄道のバスは、水玉模様のようなデザインで、写真なりイラストなりが入っていると、ありがたいなと思います。

・会長

私は、ここに各社の写真を入れてもらうイメージでいたので、本当は、そういう書き方をしておいてほしかったなと思っていました。

・委員

これだけでは、寂しいですよ。

・委員

せつかくですので、バスの形式まで入れてみても面白いですね。

せつかくの1日乗車券も、非常に分かりにくいし、あまり面白味のない書き方なので、そういうページにしても良いかなという意見です。

・会長

そうですね。お得な使い方みたいなのは、なるべく目立つように、楽しく入れて。

表面の右下の欄の作り方についても、誰が使えるかと、どんな券種があるのかを単純に表にただけですが、例えば、グリーンバスに、ただ「子どもの長期休暇割引あり」という文字が入れてありますが、こういうものも少し目立たせる表記が必要でしょうね。

・委員

病院や市役所だけではなく、それこそ散策コースに人を動かしていく仕組みとして、1日乗車券があれば、こんなところに行けるということで、表に8面、裏に8面あるので、どこかのページに「さんぽみち」のQRコードなり、案内を貼るなり、こんな楽しい使い方もできるよというページを作ると良いのかなという気はします。

・会長

たぶん「さんぼみち」の話は、地図上にある程度の表記をするのか、バス停スポットとして、そのバス停の近辺に入れるなり、あるいは、QRコードを入れるなりといったことを含めて、マップ面で吸収した方法のほうが良さそうだというのが、皆さんの意見という気がするので、「さんぼみち」については、路線図と切り離れたほうが良さそうな感じがします。こちらはあくまで、交通機関が機能的にどうつながっているのかという情報に特化したほうが良さそうな感じです。

・事務局

やはり私どもも、利用する機会、興味を持っていただくということで、1日乗車券の使い方の提案といった情報も入れたいと思い、盛りだくさんになりましたが、最終的には、バスルートの部分と、散策コースみたいなプラスアルファの部分は、利用のきっかけとして交通マップの中に盛り込みたいと思いますし、コースそのものを調べたり、紹介したりするのは、別のパンフレットもありますので、その使い分けを十分に意識して、地図の表示方法についても、路線図ではなく、マップのほうに表示できるように配慮していきたいと思います。

・委員

いつもよくバス代が高いという話が、あちこちで盛り上がるみたいですが、それこそ散策コースには、何人かで行く場合もありますよね。タクシーでそこまで行って、皆さんで散策して帰ってきても、そんなに高い値段ではないので、タクシーも上手に組み合わせられる地図、タクシーで「さんぼみち」にアクセスすれば、このくらいですみたくないのも、あっても良いのかもしれないと思います。

・会長

「さんぼみち」は、このマップの中で、位置関係のある程度、網掛けをしたような、少しざっくりとしたラインで表すなどの工夫をすることで、どういうアクセスが良いのかは、それぞれ皆さんで判断していただくということかなと思います。

・委員

公共交通マップに散策コースを組み合わせることは、1つの外出機会の創出の案としては良いと思います。逆に、本当に組み合わせてみて見づらかったら、やめたほうが良い面もある。皆さんでどこかまでタクシーで行かれて、そこからこのバス停まで行って、そこから散り散りに行くという使い方は、本当にすごく良いと思うので、入れられるなら、ぜひ入れたほうが良いと思います。

先程の公共施設も、最寄りのバス停や電車の駅から、これだけの距離があるということとは非常に大事です。私がかかわっている埼玉県の自治体では、その施設が、一番近いバス停から3～4キロ離れていることはザラなので、そういった意味では、市の施設としては、絶対に入れるべきだと思います。

表紙のスペースが少しもったいないので、レイアウトを工夫していただいて、トピックスとなる、出かけたくなる写真などを入れて、公共交通でここを使ってくださいという部分が必要かと思います。たぶん産業・観光スポットの表示のところだとは思いますが、そういったことへの充実を工夫していただければと思います。

・事務局

今までいただいた内容と、他の自治体が行っている内容、また、「さんぼみち」というよりは、1日乗車券のPRも含めて資料に盛り込みましたが、目的がぶれない形で、最終的に見やすいイメージ、レイアウトを意識して、まとめさせていただきます。

・委員

路線図のページに、「ご利用案内」があります。上に前扉・中扉のトピックスがあって、下に運賃表がありますが、場所が逆のほうが良いかなと思います。小平市のマップは、上に乗り方の案内、下全部が時刻表になっていますが、運賃がきちんと分かるほうが、

私は良いかなと思います。グリーンバスは、1日乗車券や、季節によって値段が違うこともあるので、上のほうに持っていけば、開いたときに、ちょうど真ん中ぐらいにグリーンバスが来るので、一番分かりやすい。

・委員

運賃は、西武バスは後払い、銀河鉄道とコミュニティバスは先払いと、下に表示があります。「前扉から乗車します」となっていますが、なぜここで、先払い、後払いという表示を、あえて大きく説明するのか。

・会長

上にあるのは、乗り方の案内ですので、これはこれで必要なことだと思います。だから実際の運賃と各社の方式を、どう分かりやすく組み合わせていくかという話だと思います。

・委員

それなら、この運賃表は上にして、先払い、後払いの図面が、その次にあるというほうが良いでしょうね。

・会長

そうですね。乗り方の案内をもう少し丁寧にしたほうが良い気がしますので、少し私から案を出させていただくことにして、上下は別に、事務局としてこだわっているわけではないですね。

・事務局

大丈夫です。

・会長

では、それぞれの運賃と支払方式を上にして、それに応じた乗り方案内が下に入るという形でいきましょう。

・委員

所要時間に関してですが、小平市のように、起点から終点までの時刻が横一列で見られないので、バスの所要時間を知るすべがない。例えば、グリーンバスの新秋津駅行きは、医療センターまでなら、東村山駅からそんなに距離もないですが、新秋津駅に到達までは約何分という案内が、もしかしたら、この時刻表から消えてしまう可能性を考えました。個人としては、少なからず、ざっくりとしたものを入れたほうが良いのかなと感じました。

例えば、よく鉄道駅に行くと、駅があって、その間隔と駅の上に何分と小さく書いてあるので、そういったものを想像してみたのですが。

・会長

そうですね。実際、時刻表として入ってくるのが、グリーンバスだけなので、全部の路線を入れるとなると、新たな整理をしないと難しい気がするので、どういう表現の仕方をするかですね。

・委員

小平市のマップは、完全に時刻表が載っていて、3分かかると、10分かかると分かりますが、時刻表を載せない場合だと、例えば、新秋津駅から医療センターまでおよそ何分とか、途中にある秋津公民館まで何分とか。主要な間隔だけでも書いておくと良いかもしれないです。

日本の電車はきちんと時刻表どおりに運行して、何分かかると分かかりますが、そもそもバスは遅れるイメージがある。でも乗ってみると、雨が降っている日以外は、意外に時間どおり運行するのが分かる。長い路線は、どこからどこまで何分、終点までは何分かかると必要ですし、何分かかると分かれば、意外に乗れるかもということを実験するには良いかもしれません。

・会長

実際にやってみないと分からない面もありますが、何かそういう情報を合わせて入れられる工夫をしてみますか。例えば、ざっくりとした路線があって、この区間の設定では、このくらいの時間であるという情報を入れられる可能性はありますね。あるいは、接続の図面のほかに、路線一覧みたいなものを下に作って、例えば、西武バスの路線であれば、市内のここから立川駅までだったら、どのくらいの時間かかるという設定時刻表上の時間を入れることは可能ですよね。きめ細かく入れていこうとすると、ここで工夫するしかないという感じはします。

・委員

バス停は、数百mおきくらいにあるので、その1つ1つに対してまでは、個人的には求めないですが、ある程度、路線全体がこのくらいだから、これくらいで行くかなと予想できる物差しが必要かなと思います。

・会長

どういう形に入れ込めるか、はっきり言い切れないところがありますが、その方向で検討しましょうか。グリーンバスの時刻表か、もしくは、路線図の中で入れ込める情報であるなら、所要時間について、改めて検討したいと思います。

・委員

「グリーンバスの主要バス停の時刻表」の下に西武バスの時刻表と、銀河鉄道の時刻表のQRコードがあります。ここに、グリーンバスのQRコードも貼っておかないと、自分の近所のバス停から乗る人は、時刻が分からないので、ぜひお願いします。

あと広告は、載せたほうが良いと思います。広告は、収入という面と、情報という面もあるので、ぜひ収入 兼 情報ということで、載せたほうが良いと思っています。

・事務局

実際、スペース的に、かなり制約されるところがありますが、市としても検討の必要はあると思っていますので、十分に検討をした上で、実施につなげていきたいと考えています。

・会長

このマップそのものに、広告を取るかは、検討をしていくことで。

今日の段階で、いろいろ意見をいただきました。まだまだ改善しなければならないことを、事務局で整理をしているかと思いますが、それをこれから作業して、発行にこぎつけたいと思います。せっかく今まで、今期の皆さんから意見をいただきながら進めてきましたので、具体的にこういうものになりますという最終案までいった段階で、今期の皆さんには、成果ということで、きちんと報告するように、お願いします。では、いただいた部分を改良して、スタートするというところで進めたいと思います。

・委員

ずいぶん長くかかっているの、いつぐらいに、完成しますか。

・事務局

今、平成28年度の実施に向けて、現在、市全体の予算の中で枠組みできるように、用意しています。当然、イメージや内容が詰まってきたので、実施が確定次第、作業に入ります。それと合わせて、新規路線や、ほかの交通環境が変わってくる部分もありますので、その情報を的確にとらえて、なるべく早いタイミングで発行できるようにしていきたいと考えています。

・会長

どこかが変わるかもしれないと言い始めると、なかなか時期を決められなくなりますので、予算が取れた時点で、なるべく早く発行をお願いしたいと思います。ベースができれば、それを改良して次の段階に進めば良いわけですから、そういうことでマップを

進めたいと思いますので、今後とも、お気付きの点などがあつたら、お寄せいただければ幸いです。

その他

・会長

それでは、その他について、1つ1つ説明をお願いします。

・事務局

1点目は、<報告資料1>美住町・富士見町周辺のコミュニティバス運行内容(案)、美住町・富士見町地域の新規路線に対する進捗状況についてです。

これまでの経過ですが、美住町・富士見町ルート of 地域組織案について、実際に車両を走らせた中での交通上の課題を整理するために、西武バスの協力を得て、警視庁と東村山警察署にご同行いただき、現地確認をおこないました。その現地確認によって、ルート上の課題やバス停の設置の課題などが上がってきましたので、それらを解決する目処を立てながら、10月末に、交通安全上・交通規制上支障がないことの確認ができました。当初、北側の新青梅街道から南側の直角に曲がる美住通り(真ん中下段のI)の周辺のバス停は、2箇所を検討しましたが、関係機関、特に警察・交通関係の協議で、設置箇所の選定が難しいということで、最終的に1箇所に統合した案になりました。その結果を基に、11月8日に地域で検討会を開き、その中で報告・情報提供をしながら進めてきました。

ガイドラインに沿って進めている中で、地域の自治会の同意書と一緒に、地域組織から運行計画素案の提出がありましたので、市では現在、バス停から半径300mにお住まいの15歳以上を対象として、無作為抽出した7,000名強の市民に、需要調査をおこなっています。この調査を基に運行計画を策定し、次回の交通会議で、この需要調査の分析結果や、実証運行の運行計画案を提示し、合意を得る段取りで進めるように取り組んでいきたいと考えています。実証運行に進めていくという合意が得られた場合には、来年度以降、バス停の設置等工事をおこない、工事完了後に実証運行できるように準備したいと考えています。

また、ルート案がある程度固まってきましたので、このルートを実際に見ていただけるよう、1月12日午後に予定をしています。希望する委員がいらっしゃいましたら、現地への案内を用意したいと思います。また、当日ご都合がつかない場合でも、事務局にお問い合わせいただければ、ご案内させていただきます。

・会長

ガイドラインに沿った形で言いますと、次の地域公共交通会議の中で、実証運行をスタートするかどうかの確認をする。そこで合意が得られてから準備を進めて、実証運行に入る形になりますから、想定では、最短でいつごろ実証運行に入ると考えていますか。

・事務局

いろいろ事務的・時間的な流れもありますので、スケジュール的には、来年度の夏から秋になるかと思えます。

・会長

手続き的には、2月の段階で合意が得られたとすると、諸準備等も含めて、夏ぐらいからの可能性も考えられるぐらいのタイミングかと思えます。

・委員

新規路線を記載する、しないの話もあつたので、マップは、いつぐらいにできるのでしょうか。

・事務局

やはり新年度の作業に入っていきますので、おそらく夏秋ぐらいが1つのポイントに

なるかと思っています。今のタイミングで明確には言えないですが、新規路線の実証運行の状況等を見ながら、マップも、きちんとスケジュールを考えていきたいと思っています。

・委員

関連して、当然、時の変化によって、周辺がいろいろ変わってくると思います。マップの改訂は、お金のかかることですが、例えば、1～2年後には改訂があるという企画を盛り込んでいただくと、仮に新規路線が入っていないなくても、改訂時には入ることになるので、皆さんに説明しやすくなるのではないかと思います。

・事務局

改訂については、地域公共交通会議の中でも具体的な話がなかった部分がありますが、当然、時間的にも、物理的にも、改訂や増刷の必要が出てくるとは思っていますので、その時点での最新情報は入れるべきだと思っています。市としても、1年に1回、改訂していくと考えてはいませんでしたが、マップの活用状況や市民の利用状況を踏まえつつ、民間の状況も含めて整理をして、これから適切な時期を考えていきたいと思っています。

・会長

初回の発行については、たぶん、市民からの意見、それから実際に配布してみてもの良かった点、不具合など、いろいろ出てくると思いますので、そういうのを見ながら検討することもあるでしょうから、いつの段階で、どう変えていくかという辺りは、その段階で考えるということが良いと思います。

今のタイミングでいくと、マップには、この美住町・富士見町のルートが記載できるような感じで考えていきましょう。

では、需要調査が具体的に進められ、ルート等については、すでに安全に走れるということの確認までは終わっているということで、ご理解いただきたいと思います。

・事務局

現在、個別にガイドラインを配付したり、概要を差し上げたりなどは進めていますが、恩多町、多摩湖町、久米川町など、ほかの地域からの問い合わせ状況等については、これまでの間、特に進捗はありませんでした。

子ども長期休暇割引については、<報告資料2>東村山市コミュニティバス「グリーンバス」で、子供の長期休暇割引が始まります！というチラシを作成しました。前回の会議で合意をしていますので、今年の冬休みから実施するための準備を進めています。

12月15日号の市報やホームページへの掲載と合わせて、バス停への掲示、また路線が学区域内を運行する小学校8校（化成小学校・大岱小学校・秋津小学校・久米川小学校・青葉小学校・秋津東小学校・野火止小学校・久米川東小学校）に、チラシを配付する予定です。

・委員

この50円の下に、「障害者手帳提示した場合、30円」とあります。あくまでも、子どもの長期休暇割引ですが、長期休暇の期間中は、障害者手帳があれば誰でも30円と思って、誤解されてしまう。

・事務局

表記の意図としては、子ども運賃が50円になるので、いわゆる子どもの障害者が、その半額の設定にしているということです。

・会長

子どもの障害者が、この期間に対象になるという意味になりますが、確かに、この表現をどう取られるかは、少し難しいかもしれませんね。

・委員

私は、小学生以下かつ障害者は、想像していなかったです。

・会長

そうですね。だから、どういう人が対象で、その人がどうしたら30円で利用できるのかが分かるように、ここの表記を考えていただければ。

・委員

親子で乗った場合、親はPASMOで良くても、お子さんは現金50円でないと割引にならないので、絶対50円玉持って来いと書いておかないと、話が違ふという苦情になるので、もう少し強い表現で書いたほうが良い。

・会長

私も言おうと思っていました。では、今ご指摘あったことについて、実際に利用される人にきちんと分かっている表現にさせていただくということで。

それから、告知はこれで良いですが、もう少しイメージ的に、子ども現金50円がアピールできる物を作れないですか。いかにも告知なので、私からの課題として、事務局に提示しておきたいと思います。

・委員

先日、小学校に入る前のお子さんが2人で行く場合はどうなのかと聞かれた。例えば、年長ぐらいのお子さんが、下のお子さんを連れて乗る場合もあるので、その場合は、いくら払えば良いのでしょうか。

・事務局

これはグリーンバスに限らず、保護者1人が乗る場合、未就学児2名までは無料というのは、民間の路線バスも同等にやっていると聞いています。また、場合によっては、幼稚園ぐらいのお子さんだと、きちんと自分で行けるということもありますが、基本的には、お子さん1人だけで乗る場合、子ども運賃を払っていただく認識しています。

・委員

「一般(中学生以上)」で、「子ども(小学生)」ですが、小学生というより、小学生までということですか。

・会長

通常、運賃の表記をする場合には、以下としてしまうと、逆に誤解を招く場合がある。小学生の場合は、1人で乗ろうが、親と一緒に乗ろうが、どういう条件で乗ろうが、半額です。通常は、グリーンバスに限らず、小学生という表記をしていると思います。

・委員

未就学児が2人で乗る場合は、年長組だけで乗っても、無料にはならないです。この「保護者」は、法的な保護者ではなくて、運賃支払者というイメージなので、小学生がお連れの未就学児は無料で扱います。だから、小学生と幼児1人であれば、幼児は無料という意味になります。

・会長

そういったケースについては、お問い合わせいただくしかない部分も出てくるかもしれません。

・事務局

最後に、委員の改選について報告します。今期の委員の任期が、平成25年12月6日から平成27年12月5日までの2年間となっていて、本日が、実質的に今期の最後の会議になります。

・会長

この件について、特に質問はないと思いますが、今後の、今年度なり、新しい任期でのスケジュール等で分かっていることについては。

・事務局

次回の地域公共交通会議の日程は、1月下旬～2月中旬ごろを考えています。新規路線の需要調査等、運行計画をまとめて、交通会議で合意を得たいと考えています。正式

な日程が決まりましたら、早めにご案内したいと思います。

・会長

本当は、今まで、ずいぶん発言をいただきましたので、良いかなとも思いましたが、時間の余裕もありますし、今回が任期の最後なので、特に市民委員の皆さんから一言ずつ、感想なり、あるいは、今後に向けての意見等いただければと思います。

・委員

委員になって以来、コミュニティバスには、ずいぶん問題と言いますか、考えなければいけないことが多いことが、よく分かりました。

もう1つの感想として、ずいぶん進むのが遅いという感じを印象として持っています。非常にお忙しいことは重々、分かりますが、このマップについても、今度の新しい美住・富士見も、それ以外のことについても、ずいぶん遅い印象ですので、もう少しトントンと早く進むようになればと思います。お疲れ様でした。

・委員

私は2期だったので、4年くらい参加しましたが、これだけ立場の違う人が集まって話すと、それぞれの視点でいろいろな意見があって、単純にそういったことが経験できたことは、感謝の一言です。

心残りはいくつかありますが、運賃を100円から180円に上げたことで、利用しなくなってしまった人が大勢いることは寂しいことですし、180円で落ち着いてはいますが、今後に向けて、多少なりの値下げも検討していただけたらありがたいなという印象です。運賃に関しては、運賃と乗車率のバランスが一番取れたところがどこなのかを見てみたかったです。

・委員

初めて市役所の中の市民委員をお引き受けして、私としては、自分が住んでいるところだけではなく、交通という面から東村山市をいろいろ見ることができたことは、面白かったなと思っています。やはりグリーンバスという綺麗なバスが走っていることに関して、市民はとても関心があるみたいなので、この会議だけではなく、いろいろな人の意見も聞けて、面白かったなと思っています。また今後も勉強したいと思います。ありがとうございました。

・委員

私自身、どういう内容の会議かも分からないままに参加して、任期終了まで務めさせていただいたことについては、お礼を申し上げたいと思います。

公共交通の中でのグリーンバスという位置付けの中で、市も一所懸命やっています。私は、交通会議に参加し始めたときに、どこのバス停にも雨除けの小さな屋根を付けたらどうだろうという意見を素人考えで申し上げましたが、実際には、道路の縁に立てるので、いろいろな問題があることがよく分かりました。風はなかなか防げないでしょうが、少なくとも雨だけでも防げるバス停があれば、時間がずれることは、たくさんありますので、傘を差さないで待ってられる便利さが加われれば非常に助かるので、それによって、さらに利用者が増えていくことを期待しています。

長い間というか、短い間というか、お世話になり、ありがとうございました。

3. 閉会

・会長

よろしければ以上で、本日の議題は、すべて終了しました。これをもちまして、平成27年度第3回東村山市地域公共交通会議を閉会します。長時間にわたり、ありがとうございました。